

持病とは

文
伊藤公一

text by Kouichi Ito

小生の担当する甲状腺疾患の多くは命に関わらないものの、投薬や経過観察を要し、定期的な通院をせざるを得ない場合がある。

そこで患者様には「一生、持病と上手に付き合っていけば、心配はないので」と言う文言を何気なく使っていた。

ところがコロナ禍をきっかけに、この「持病」の響きが一気に重くなってきた。特にお年寄りの受診者より「私の持病は新型コロナウイルスで重症化する要因となりますか？」と、不安を問いかけられるようになった。

無論、甲状腺ホルモンが正しくコントロールされ、進行癌が放置されてさえないければ、新型コロナウイルスに感染しても、全く問題はないわけだが、

この機に、今まで軽く発していた「持病」の正確な意味を調べてみた。

辞書によれば、持病とは、いつまでも治らない病気を総称する言葉。風邪などの一過性の病気や重症かつ治療中の病気以外の、慢性的または断続的長期にわたる病気であればどのようなものでも持病と表現される。さらに医師の診察を受けて治療中である慢性的な疾病のみならず、本人が長期に自覚し

ている症状も持病と表現するため、種類や原因は多岐にわたるとある。

実に幅の広い解釈に思えるが、要するに本人の気の持ちようということであらう。とはいえ、「病は気から」で済まない持病もある。

安倍晋三首相が持病の悪化で、自ら職務継続困難と判断。国民に詫びつつ辞任を表明という号外ニュースが飛び込んできた。

総理大臣が抱え続けていた潰瘍性大腸炎という病気。20代を中心に若者から高齢者まで幅広い世代にわたり、国内の患者数は16万6000人以上、国民1000人に1人ほどで、難病の中で最も多いとされている。

そこで疾患は自身の専門外であり、医師として診療に当たったことはないが、この病気は昔も今も医者の中では有名だ。似て非なる大腸疾患であるクローン病との鑑別ポイントは医学部の定期試験、医師国家試験において、ヤマ中のヤマであり、徹底的に暗記させられる。

その頃には存在していなかった特効薬が開発されたとはいえ、14年前の第一次政権時代の反省、無念さも抱えつつ、8年に及び総理大臣の重責を果たしたこと、勇気ある幕引きは本当に立

派である。

退任の意向を伝える演説は実に見事であった。持病に負けたというよりも、持病を克服しつつ最長政権記録を達成させた本人の気概と、主治医の診療力に心よりエールを送りたい。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。
北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。
東京女子医大、筑波大大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。
日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。
伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/>
名古屋甲状腺診療所（名古屋分院）<http://www.kojin-kai.jp/nagoya/>
さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院）<http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>



表参道日記